十字架への道・十字架上での前半3時間・後半3時間・付帯現象・埋葬

最後の一週間の出来事

ユダヤ暦ニサンの月　　紀元30年4月7日

10日（日）	11日（月）	12日（火）	13日（水）	14日（木）	15日（金）
					†

エルサレム入城

1. 11日、いちじくの木の呪いと宮きよめ、ギリシヤ人の面会希望と「一粒の麦」の教え
2. 12日朝、枯れたいちじくの木を前に祈りの教え
3. 12日、小羊の吟味（イエスの権威に対する4つの挑戦とメシア神性の教え）
4. 弟子たちに終末預言の教えオリーブ山での説教。十字架の死を予告する。
5. 水曜日の夜の出来事は、二つ。
   (1) オリーブ山からベタニヤに戻り、シモンの家で夕食。マルタが給仕し、ラザロも食卓に。マリヤによる香油注ぎ、これがイエスの埋葬準備となる。
   (2) マリヤによる香油注ぎに反対したユダは、イエスから叱責を受ける。夕食の席を抜けてエルサレムの祭司長たちのもとへ。銀貨30枚でイエスを売ることを約束する。
6. 水曜日の夜明けから日没まで、そして木曜日の夜についての記事は、ない。
7. 木曜日の夜明け、14日は過越の食事を準備する日。
   (1) 羊の肉以外の食材を用意する。
   (2) 過越の小羊を神殿でささげ、肉を持って帰る。14日の午後3時から6時にかけて。
8. 弟子たちが過越の食事の準備をする。場所は、あらかじめイエスが手配していた。
9. 日没後は金曜日15日、イエスと弟子たちは過越の食事の席につく。
10. イエスと弟子たちの過越の食事、伝統的なユダヤの手順に沿う。ユダの裏切りの予告が3回されユダが席を抜けたあと、第三の杯（贖いの杯）のときに新しい契約の宣言。
11. 過越の食事の後、二階部屋での説教
12. イエスと弟子たちは二階部屋から出発、エルサレムの町を出て、ゲッセマネの園に向かう。ゲッセマネへの道すがらの教え、「まことのぶどうの木とその枝」。
13. ゲッセマネの園に近づいた辺りで、イエスが大祭司としての祈り。
14. 金曜日の夜10時～11時頃、ゲッセマネの園での祈り
15. ゲッセマネの園で、イエス逮捕
16. 深夜から夜明け後にかけて、ユダヤ法による裁判
    (1) 前の大祭司アンナスによる審問
    (2) 大祭司カヤパの前での裁判（指導者側に逮捕・裁判の過程で22件のユダヤ法違反）
    (3) ペテロの失敗
    (4) 夜明け後、サンヘドリンの前での公式裁判
    (5) ユダの死
17. 15日早朝から午前6時頃までの間、ローマ法による裁判
18. 15日午前から夕方までの間、十字架上での死と埋葬

聖書箇所

1. 十字架への道（ルカ 23：26～33）
   (1) クレネ人シモン（ルカ 23：26）
      ① クレネ：北アフリカのペンタポリス（5つのギリシヤ系町）のひとつ。最盛期は人口10万、ユダヤ人共同体もあった。紀元115年ユダヤ人反乱により衰退。
      ② マコ 15：21　アレキサンドルとルポスの父
      ③ ルポス→ロマ 16：13　選ばれた人＝重責を担っている人。ローマに移住
   (2) 嘆き悲しむ女たち（ルカ 23：27～31）　紀元70年エルサレム崩壊の預言
   (3) 刑場にて（ルカ 23：33、マタ 27：33～34）
      ① ゴルゴダ（アラム語「どくろ」）、カルバリはラテン語
      ② 苦味を混ぜたぶどう酒＝ぶどう酒＋没薬や雄牛の胆汁など
         - 飲むと意識もうろう、痛みを和らげる麻酔薬・鎮痛剤のようなもの
         - イエスはこれを飲まない。意識を鮮明に保ち、ことばを発するため。
2. 十字架上での前半3時間（ヨハネ 19：18～27）
   (1) 十字架の形状（18節）
      ① 一本柱・X字型・T字型・十字型の4種類
      ② マタ 27：37、ルカ 23：38　→　罪状書きがイエスの頭上に釘付けにされた
         →　一本柱か十字型。一本柱は主にイタリヤ国内での使用。おそらく十字型。
      ③ 十字型なら、使用する釘は3本。両手首にそれぞれ1本、両足を重ねて1本。
         （←詩 22：16「わたしの手足を引き裂いた（ピアスした）」）
      ④ 地面の穴に、十字架の柱を落とし込む（←詩 22：14、衝撃で脱臼する）
      ⑤ イエスを中央にして、左右に二人の犯罪人（←イザヤ 53：12）
   (2) 罪状書き（ヨハ 19：19～22節）
   (3) 第一のことば＝祈り（ルカ 23：34）
   (4) 着物の分配（23～24節）
      ① 「下着」：現代の肌着ではない。ギリシヤ語で「キトン」、体全体を包み込む、首から足先まである着物。
      ② 縫い目なしの1枚の布からできているので、四つに切り分けると価値がなくなる。そこで、くじ引きで誰が取るか決めた。（←詩 22：18）
   (5) あざけりを受けるイエス（マルコ 15：29～32）
      ① 29節　群衆から（←詩 22：7「彼らは口をとがらせ、頭を振ります）
      ② 31節　指導者たちから
      ③ 32節　いっしょに十字架に付けられている両側の二人から
      ④ ルカ 23：36～37　兵士たちから
   (6) 信仰を告白するひとりの罪人（ルカ 23：39～41）
      ① 彼の信仰の内容
         - 自分は罪人である
         - イエスには罪がない
         - イエスは、自分を救えるお方である
         - イエスは、今は死にかけているが、やがて王になる

(7) 第二のことば（ルカ 23：43）
(8) 第三のことば（ヨハ 19：25～27）
① 十字架のそばの4人の婦人
- イエスの母マリヤ
- 母の姉妹＝ヤコブとヨハネの母（マタ 27：56）＝サロメ（マコ 15：40）
- クロパの妻マリヤ＝小ヤコブとヨセの母（マコ 15：40）。【伝承ではクロパはヨセフの兄弟、すなわち母マリヤの義理の姉妹】
- マグダラのマリヤ

② イエスは、母マリヤの世話をヨハネに託した。マリヤにとって、イエスは息子から主イエス・キリストへ。その後のマリヤの記録は、使徒 1：14。

3. 十字架上での後半の3時間　神との断絶⇒霊的死とハデスの苦しみの経験⇒霊的復活
(1) 12時から午後3時まで暗やみ（マタ 27：45、マコ 15：33、ルカ 23：44～45a）
① 神の怒りの現れ（出 10：22）→メシアの上に、神の怒りが注がれている
② 同時に、光である方メシアを拒否したイスラエルに対するしるし（ルカ 22：53「今はあなたがたの時である。暗やみの力である」、その背後にはサタン）
(2) 後半3時間の終わりに、第四のことば（マタ 27：46、詩 22：1）
① 「父よ」ではなく、「わが神」。父なる神との断絶状態にあることを示す
② 周囲の人たちは、エリヤを呼んでいると思った（マタ 27：47）
(3) 第五のことば（ヨハ 19：28）「わたしは渇く」・・・ハデスの苦しみを受けている
(4) 第六のことば（ヨハ 19：29～30a）「完了した」
① 「酸いぶどう酒」：鎮痛剤でなく、飲用のワイン・ビネガー
- 残り二つ、第六と第七のことばを明瞭に発音するために受けた
- ヒソプは、過越の祭りと関係（出 12：22）

② 「完了した」＝ギリシヤ語「テテレスタイ」負債を完済した→イエスは、人の罪の負債をすべて支払ってくださった。
(5) 第七のことば（ルカ 23：46、ヨハ 19：30b）
① 大声で「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」
② 頭をたれた。そして霊をお渡しになった（イエスは、死の時をご自分で選んだ）
- 通常の人の死に方：「霊が肉体から離れる＝死ぬ」、その結果、頭をたれる

③ 「父よ」という呼びかけ＝父なる神との関係が回復している

4. キリストの死に伴う諸現象（マタ 27：51～56）
(1) 裂けた神殿の幕
① 神殿の聖所と至聖所を仕切る幕：天井から床まで約 18m、厚さ約 10 ㎝
② 上から下に向かって裂けた。人間が下から上に裂いたのではない。
③ 祭司たちへの影響→使徒 6：7
(2) 地震と聖徒たちの復活
① 2つの解釈（ギリシヤ語原文では、いずれも可能な解釈）
A説（蘇生説）：地震のとき墓が開き、同時に多くの聖徒たちのからだが生き返った。彼らはイエスの復活の後に、墓から出てきて、エルサレムに入った。
B説（復活説）：地震のとき墓が開いた。イエスの復活の後、多くの聖徒たち

が復活して、墓から出てエルサレムに入った。

② イエスを復活の初穂であるとする点では、2つの解釈ともに同じ。

③ 復活の順序を、初穂であるイエス→新約の聖徒（携挙）→二人の証人→旧約の聖徒たち→大患難期の聖徒たちと5段階でとらえると、A説が正しい。

(3) 百人隊長【伝承では、名はロンギナス、後に信者となり殉教の死を遂げた】

(4) ガリラヤから来た女たち：イエスの埋葬まで見守り、あとで葬り直そうと思う

5. メシアの埋葬（ヨハ19：31～42）

(1) イエスのわき腹が槍で刺し通される（31～37節）

① 備え日＝安息日のために備えをする日＝金曜日

② 大いなる日＝過越しの祭りの期間

③ 十字架刑における死体の措置

- ローマ人：そのまま放置して、野獣や獣に食わせる。まっとうな埋葬をしないことは刑の一部。
- ユダヤ人：木につけられた者は汚れている（申21：22～23）。そのまま放置すると、町が汚れる。特に安息日に町が汚れることは容認できない。しかも、この日の夜は、祭司たちのための過越の食事である（ヨハ18：28）。十字架に罪人がつけられたままでは、それができない。
- 刑の開始からまだ6時間。通常はさらに数時間から数日間、生き延びる。
- 死期を早めたいときは、すねの骨を折って、窒息死させる。

④ イエスはすでに死んでいた。

⑤ 確認のために、兵士のうちの一人がイエスのわき腹を槍で刺し通した。（←ゼカ12：10「自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見」）

- 血と水。諸説ある。目撃者はヨハネ自身。尋常なことではないので、真実だと強調。次は、熊本聖書フォーラム・清水の私見です。
  - 血＝レビ17：11、罪の贖いをするのは「血」である。ヘブ9：22
  - 水＝尋常な死ではないことのしるし。同時に、ヨハネ7：38「腹から、生ける水の川が流れ出る」、出17：6、Ⅰコリ10：4、荒野でイスラエルに水を与えた岩はキリストであったことなどが、連想される。

(2) イエスの遺体が墓に葬られる（ヨハ19：38～42）

① アリマタヤのヨセフ（マタ27：57「金持ち」「イエスの弟子となっていた人」、マコ15：43「有力な議員」「神の国を待ち望んでいた人」）

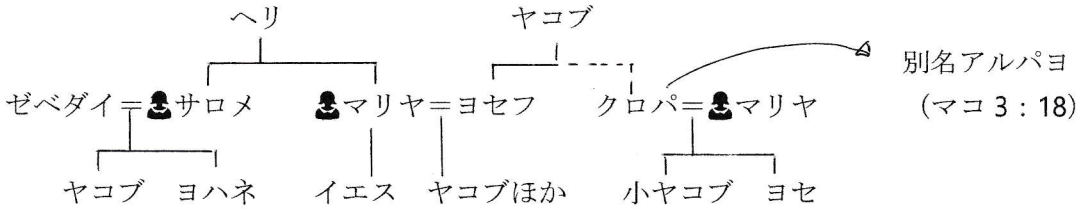
- ピラトは許可を与えた（恩赦）。これがなければ、ユダヤ人たちは遺体を城壁から投げ捨てていた。
- 安息日に入る日没までに時間がないので、埋葬は大急ぎで行われた。

② ニコデモは、没薬とアロエを混ぜ合わせたもの約30キロを持参

③ 墓は、ゴルゴダに近い。墓地ではなく、園の墓。だれもまだ葬られたことのない新しい墓（ヨセフの墓＝金持ちの墓、←イザ53：9）

④ マタ27：59～60　入口には大きな石をころがしかけて帰った。

⑤ マタ27：61　女たちは、この埋葬を見ていた。→日没、16日安息日に入る。


ヘリ
ヤコブ
別名アルパヨ
（マコ3：18）
ゼベダイ＝サロメ
マリヤ＝ヨセフ
クロパ＝マリヤ
ヤコブ
ヨハネ
イエス
ヤコブほか
小ヤコブ
ヨセ